

内外交差点

そらとぶタクシーと地域タクシー会社の新たなシナジー ドアから空へ、未来の移動体験

寶上 卓音氏（そらとぶタクシー社長） 第6／12回

都市のモビリティは、いま歴史的な転換点を迎えるようとしています。私たちが提供を目指している「そらとぶタクシー」は、これまでの交通の常識やライフスタイルを大きく変える可能性を秘めています。飛行機やヘリコプターといった既存の空の移動手段は、その空の移動においてどれだけ速くても必ず地上で空港やヘリポートに移動する工程が必要であり、この移動には自家用車やタクシー、電車などを使わざるを得ませんでした。移動の手間や所要時間、乗り継ぎのストレスは、多くの人にとって避けられない課題でした。

しかし、もし都市の中心部やタワーマンションの屋上、大型商業施設の駐車場、さらには観光地の近郊などが新たな「空のポート」として活用されるようになればどうでしょうか。乗客はもはや空港を経由する必要がなく、文字通り「自宅の近くから直接空へ飛び立つ」ことが可能になります。これは単なる移動手段の変化ではなく、私たちの暮らしやビジネスのスタイルそのものを変革するインパクトを持っています。

この新しい空のモビリティ革命において、地域のタクシー会社との連携は極めて重要なカギを握ります。従来のタクシーは空港や駅への送迎が中心でしたが、これからは「最初的一步」と「最後的一步」を担うパートナーとしての役割が期待されます。例えば、プレミアムなハイヤーサービスを導入し、利用者が自宅やホテルからそらとぶタクシーのポートへ直行できる仕組みを整備する。車内でオンラインチェックインを済ませ、ポートに着いたらすぐに搭乗できる。こうした体験が実現すれば、ドア・ツー・ドアの完全にシームレスな移動が可能になります。

また、地方の観光地でも同様のシナジーが生まれます。これまでは観光客が空港からレンタカーや路線バスを使って移動していましたが、今後はそらとぶタクシーで観光地の近くまで一気に飛び、その後は地元のタクシー会社が観光スポットを巡るサービスを提供する。これにより、観光客は効率的に複数の名所を楽しめ、地元経済にも新しい需要が生まれます。タクシー会社にとっても、これまで空港送迎が中心だったビジ

ネスモデルから、新しい付加価値型のサービスへと進化するチャンスとなるのです。

他のシナジーを例にあげると、最近で

は地方において自動運転バスの社会実験が行われてきています。そらとぶタクシーが乗り入れできないような秘境とローカルの自動運転観光バスを組み合わせると、秘境を巡るなど、面白い事例が頭に浮かびます。そらとぶタクシーと人力車の組み合わせなんか面白いと思います。そらとぶタクシーを使って着陸するポートに人力車が待っている。海外の富裕層が人力車に乗って現地をすこし観光しながら、その街の風を感じるのです。地方交通と一口に言っても、タクシーからハイヤーやバスとたくさんの選択肢があります。それぞれの視点から見て、どのように活用するかを利用者に対して提案できると、今後も利用者に選ばれる交通として生き続ける事が出来ると言えるでしょう。

さらに将来を見据えると、そらとぶタクシーのポートと地元タクシー会社のシステムをデジタルで連携させ、利用者がスマートフォンのアプリひとつでハイヤー予約から空のフライト、現地での移動手段まですべて一括手配できるようになる未来も考えられます。観光、ビジネス、医療、物流など、多様な分野でこのシナジーが広がれば、日本の都市や地域はより便利で持続可能なモビリティ社会へと進化していくでしょう。

私たちはそらとぶタクシーを単なる新しい乗り物としてではなく、既存の交通ネットワークと融合しながら、地域社会と共に成長する「移動エコシステム」の中核として位置づけています。地元タクシー会社との協力は、その未来を形作るうえで欠かせない要素です。これからも私たちは地域とともに、新しい空の時代を切り拓いていきます。

最後に、私たちの仕事は1.5次交通として、中長距離間の移動をするお客様を運んで目的地の最も近い場所で降車していただく事です。一時的に目的地Aに行きたい場合はそこまで行くことができます。しかしその次の動線を経由して目的地B、目的地Cと近隣を周遊していく際に、その先の動線には必ずローカルの交通手段を必要とします。私達は地方との共存をキーワードに、世界を幸せにする為に移動を提供し続けます。

